

報道発表資料の配付日時 6月5日(水) 14時00分

発表項目 (行事名)	令和元年度(2019年度)土砂災害防止功労者の表彰について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>国土交通省及び道では、防災・減災の取組の一環として、台風などの時期を迎えるにあたり、住民一人ひとりが土砂災害の防止及び被害の軽減の重要性について認識し、理解が深められるよう、毎年6月を「土砂災害防止月間」として定めています。</p> <p>この取組の一環として、国土交通省において土砂災害防止に関して顕著な功績があった個人・団体に対して、国土交通大臣表彰を実施しており、令和元年度(2019年度)は、道から推薦した「上富良野町」の受賞が決定し、6月6日に神奈川県横須賀市で開催される土砂災害防止「全国の集い」にて表彰されますのでお知らせします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> 受賞者 (団体) 上富良野町 表彰基準 土砂災害防止思想の普及 功績概要 <ul style="list-style-type: none"> ・昭和63年から平成元年度まで続いた十勝岳の火山噴火を契機に、砂防施設等の見学を学習に組み込み、小学校行事として「親と子の火山砂防見学会」を永年にわたり実施している。 ・同見学会では、当時小学生として参加した親が再び我が子と参加するなど、火山災害に対する地域の防災意識を維持向上している点で多大な貢献をしている。 表彰式 日 時：令和元年(2019年)6月6日(木) 13:00~17:00 会 場：神奈川県横須賀市 よこすか芸術劇場(大劇場) 		
参 考	過去の道の受賞者は次のとおりです。 平成元年度 (団体) 上富良野町、美瑛町 平成11年度 (個人) 水上清氏 (美瑛町)		
報道(取材)に当たってのお願い			
他のクラブとの関係	同時配付	(場所) 上川記者会	
担 当 (連絡先)	建設部土木局河川砂防課砂防グループ(担当者:主幹 伊藤 拓郎) TEL ダイヤルイン 011-204-5560 内線 29-404		

令和元年度（2019年度）土砂災害防止功労者の表彰について

受賞者：上富良野町（団体）

表彰基準：土砂災害防止思想の普及

功績概要：昭和63年から平成元年度まで続いた十勝岳の火山噴火を契機に、砂防施設等の見学を学習に組み込み、小学校行事として「親子の火山砂防見学会」を永年にわたり実施している。同見学会では、当時小学生として参加した親が再び我が子と参加するなど、火山災害に対する地域の防災意識を維持向上している点で多大な貢献をしている。

親子の火山砂防見学会（十勝岳） ～十勝岳大正泥流を学ぶ30年間の取り組み～

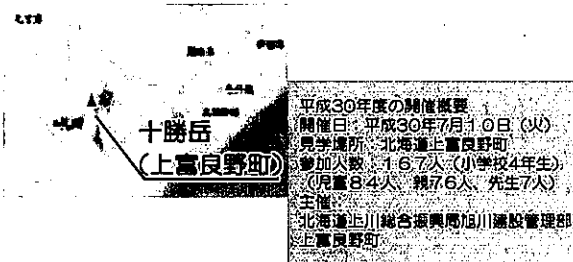
北海道のほぼ中央に位置する上富良野町は、大正15年に十勝岳で起こった大噴火により発生した融雪型泥流（通称：大正泥流）により137名の犠牲者を出しました。その後、1962年（昭和37年）に起こった大噴火を契機として、北海道では昭和38年から富良野川砂防事業を開始し、砂防施設の建設を進めてきました。さらに、1988年（昭和63年）の噴火が起こったことにより、富良野川火山砂防事業基本計画を策定し、新たな泥流対策施設の建設に着手しました。

一方で、この十勝岳噴火時に上富良野町は730名に避難勧告を発令しましたが、一部住民の未避難等、住民避難の難しさを痛感しました。この教訓から“防災思想普及が重要”と考えた上富良野町は、親子が今も残る大正泥流被害の痕跡及び被害軽減のための砂防事業を現地で学ぶ「親子の火山砂防見学会」を1990年（平成2年）に北海道と共同で開始しました。

見学会は上富良野町の小学校の総合学習として、昨年まで29年に渡り継続され、今年の開催で30年目を迎えます。これまでに延べ5,853人の親子の参加がありました。

見学会のポイントは（1）大正泥流の甚大さを実感してもらう、（2）その被害から復興した先人の苦勞を知ってもらう、（3）泥流から町を守るために砂防施設が作られていることを知ってもらう、（4）その砂防施設も万能ではなく、いざという時どのように行動するべきか考えてもらうことです。当時小学生として参加した親が我が子と再び参加するなど、今も見学会は防災意識向上に多大な貢献を果たしています。

泥流堆積範囲と見学マップ



①上富良野小学校でビデオ学習



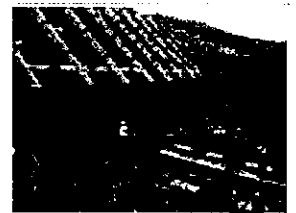
②上富良野橋 市街地にも泥流が氾濫したことに驚きの声！



⑤3号堰堤 堤長445m堤高1.8m効果量195万m3



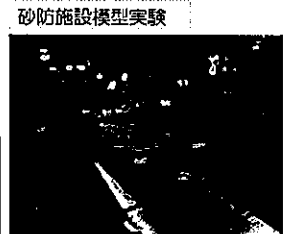
⑥2号透過型堰堤 堤長917m（透過型では世界最長）堤高14.5m、効果量59万m3



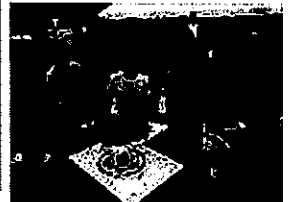
③高田カワ宅跡 大正泥流跡と復興の痕跡に先人の苦勞を実感



参加者全員で記念撮影



コーラを使った噴火模擬実験



④遭難記念碑

泥流の威力に絶句！（石碑の台石は泥流で流下した巨石だった）その重量はおよそ70トン！

